

8/24

東北お遍路プロジェクト

相馬沿岸部の現状理解

バスツアー 県内外から22人

東日本大震災の被災地を結ぶ巡礼路の設置を目指す一般社団法人「東北お遍路プロジェクト」(仙台市)は二十三日、本県と宮城県沿岸部の現状理解を深めるバスツアーを相馬市などで実施した。

日本財団が政府と連携して進める「海でつ

ながるプロジェクト」の一環。一般から参加者を募ったツアーは初めて。東北お遍路プロジェクトは福島、青森、岩手、宮城四県の沿岸部に鎮魂の巡礼路の整備を目指し、二月に五十三カ所を巡礼地に選んだ。

県内外から二十二人が参加した。巡礼地に

なっている相馬市磯部の稲荷神社・寄木神社では、新妻香織理事長(相馬市)が被災状況や海岸部の復旧状況をはじめ、高台にあるため、震災時は多くの住民が避難してきたことを説明した。

一行は相馬市内で魚介類の放射性物質検査体制も学んだ。広島市の新多美智恵さん(76)は「被害の大きさを実感した。今後も被災地に寄り添っていきたい」と話した。



稲荷神社・寄木神社で新妻理事長(右)から被災や復旧状況の説明を受ける参加者